

本物の森を造ろう

第8回日中環境保全友好植林実践会報告



友好植林

美しい地球環境
を守ります。
子孫に自然を
贈りましょう。



特定非営利活動法人
日中環境保全友好植林実践会
平成18年8月1日発行
〒113-0034
東京都文京区湯島3-1-3
TEL03-3836-9408
FAX03-3836-5215

第八回植林レポート

地球環境と日中友好の 為に継続して



訪中国団長 水野産業(株)
水野啓次郎

初めての「日中友好植林事業に
関する協定書」の調印を九年前に黒
龍江省饒河縣人民政府と実施し、翌年平
成十一年五月一日メーデーの日に初めて植林を饒河縣で
実施してから今回で八回目の植林を遼寧省鞍山市岫岩縣
で実施致しましたが、今回は今迄に無い大成功をおさめ
ました。

大連空港よりバスに乗り換え四時間程、延々と続く広
大な農村の丘陵地帯の高速道路を走り、春先の畑の土埃
と黄砂で昼間だと言うのに太陽が月の様に黄色にかすん
で薄暗い中、岫岩縣入口にて地元の小・中学生数百人の
プラスチックバンドと岫岩縣要人達の熱烈歓迎を受けました。

翌日の植林には共産党書記、副書記、縣長、副縣長、
林業局局長以下岫岩縣関係役人達総出と地元青年予備軍
人、小中学生農民、そして縣の商工会員の人達も協力
(地元新聞では二、〇〇〇人以上参加)し、縣あげての
植林となりました。

今回の私達の植林がきっかけとなり、植林の前日、地
元政府、商工会員による、「岫岩中日環境保護友好植樹
協会」設立総会に私達一行も招待されました。なんと素
晴らしい事ではないでしょうか。

昨年中国側の要望で日本の木の種子を贈呈しまし
たが、今後毎年木の種子を送り、地元苗木畑で苗木を育
成し、その苗木で次の植林地に植林して行きたいと思
います。

これからも地球環境改善と日中友好の為に継続して植
林をして参りますので、皆様方のご支援ご協力をお願い
致します。



- 参加された方々 (敬称略)
- | | |
|----------------|--------|
| 水野産業(株) (団長) | 水野啓次郎 |
| (株)京博 | 阿井 正夫 |
| (株)高野 一ノノ | 杉山 和夫 |
| (株)濱別商事 (副団長) | 小島 浩博 |
| (有)佐藤商店 (副団長) | 佐藤 浩一 |
| イシキヨー(株) (副団長) | 井出 淳則 |
| (株)まるき | 木下 芳則 |
| 丸栄第1物産(株) | 齋藤 頌 |
| 丸栄第1物産(株) | 田村 美子 |
| 丸栄第1物産(株) | 山田 美子 |
| 東海林不動産 | 渡辺 博行 |
| (株)渡辺組 | 東海林 強 |
| (株)ブリーズ | 井田 美子 |
| (有)佐藤商店 | 田村 美子 |
| (株)日東ストローク商会 | 佐藤 正勝 |
| アオト印刷(株) | 米田 忠雄 |
| アオト印刷(株) | 佐藤 清俊 |
| 富士製袋(株) | 廣島 秀 |
| 溝端紙工印刷(株) | 平井 史之 |
| 東商化学(株) | 船橋 紀雄 |
| 三和家庭用品(有) | 上ノ段 秀幸 |
| 三和紙工(株) | 李 冬文 |
| タイボルト(株) | 王 烈 |
| デンカポリマー(株) | 林 勇 |
| (株)東京クイン | 諸村 宏 |
| 陸化学工業(株) | 飯塚 久寛 |
| 東洋アルミ商事(株) | 水野 和彦 |
| リスバック(株) | 堀川 正人 |
| 福助工業(株) | 片桐 信二 |
| トツプナー(株) (添乗員) | 永田 政一 |
| 中青旅控(株) (添乗員) | 水田 正義 |
| 水野産業(株) (添乗員) | 唐 翊 |
| 水野産業(株) (事務員) | 唐 洋 |
| 水野産業(株) (事務局) | 武東 鋒 |

参加された皆さまからすばらしいお便りが届きました！

言葉の壁を越えて

(株)京樽 阿井 正夫



昨年に引き続きの参加となりました。今回から変更された植林地（遼寧省岫岩縣）は、大連から車で3時間程度と、極めて交通の便の良い地方都市でした。

思えば8年前に初めて、最初の植林地（黒龍江省饒河縣）に、大連から汽車で2泊3日かけて行ったことが嘘のように思われます。宿泊場所についても年々近代的になり、今回の町の中心部にあるホテルは、中国都市部のホテルと比べても遜色のない立派なものでした。

しかしながら町を一步出ると、そこには8年前と何ら変わらない貧しい風景が現れます。それらを見るたびに、現在の中国が抱えている厄介な問題である、都市部と農村部の貧富の格差拡大というも

のに思いを巡らざるを得ませんでした。

今回は昨年のような反日騒動もなく、現地における熱烈歓迎ぶりは、過去に無い盛大なものでした。植林式典の参加人数も、現地側発表では小・中学生を含めて約2000人と、今までよりも一桁多い状況でした。

それらの小・中学生との触れ合いも新鮮なのですが、今回はそれ以上に、一般参加の農民の人たちが我々に好意を持ってくれたと感じる瞬間があり、とても感動しました。「明るい未来を作るために、国境を越えて、人種を超えて、お互いに協力しましょう」ということが、言葉の壁を越えて通じたように思われました。

今後についても、このような感動を一人でも多くの人と共有化できるように、植林活動の継続に対して、出来る限りの協力をしていくつもりです。



「本物の森」を

副団長 (株)湧別商事 小島 博



遼寧省岫岩で行なわれた第八回日中環境保全友好植林実践会は、私にとって意義ある物でした。実践会の8年の植林活動が岫岩政府、党、経済会、等を動かして、自発的に中日環境保護友好植樹協会を設立し環境保全の大切さを日中両国が強く意識を持ち合えたからです。

植林した広葉樹の葉は5年から10年で岫岩の土地を甦らせ、その水は大連市の水源の一部として今以上の水質となります。手伝ってくれた子供達が30年後、岫岩にある3ヶ所の大きな、大きな森で日本人と共に植樹した事を思い出してくれたい最高に幸せです。

技術力のある林業研究所に贈呈した、日本のニセアカシア、花モミジ、マカバ

が3年目の植林用苗として使えたら素晴らしい事で、本物の鎮守の森が出来るのを夢見ています。

最後に、岫岩の植林地実現に決断を頂きました水野理事長、現地調査、打ち合わせをしてもらいました佐藤理事、御理解を賜りました阿井理事、井出理事を初め全理事の皆様改めて御礼申し上げます。

ありがとうございました。



日本はアジアのリーダーシップを

(株)吉野家ディー・アンド・シー 杉山 和敬



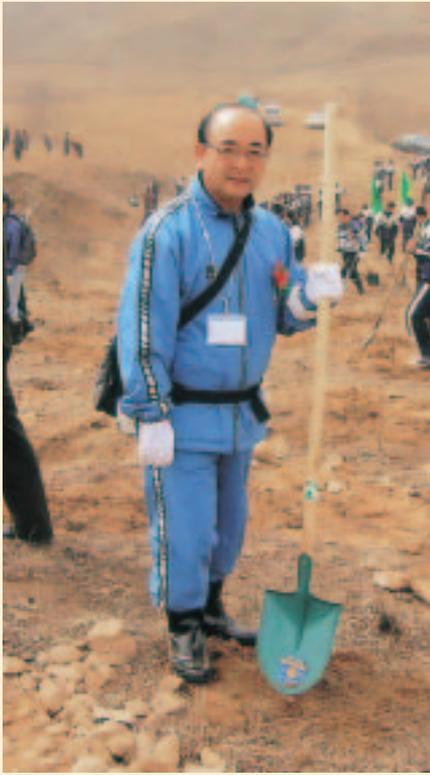
今回、私は初めて中国大陸に渡り、日中環境保全友好植林実践会第8回植林及び記念式典に参加し、日本企業のリーダーシップのあり方について、再考する機会を得た。中国では印象的なことが二つあった。一つは有名な黄砂である。訪問した大連、岫岩、丹東、瀋陽で共通したことは空が黄砂に覆われていたことで、かつては自然現象と位置づけられていた黄砂も、現在では中国における過放牧、農地転換による耕地拡大等による人為的影響と再認識されている。もう一つの印象的なことが前述したプラスチック、ビニール等の廃棄物投棄である。廃棄物投棄は環境インフラの不備に起因し、かつては廃棄物の多くが土に還る有機物であったことに、物質文化が進むに連れ

て土に還らないプラスチックやビニールが増加し、地方の市街地、山間部の集落には投棄されたプラスチックやビニールゴミの山がいたるところで見られた。日本の26倍の国土において13億弱の人々が暮らし、経済が急成長する中国において、同国の経済の急成長と国力を考えると何かやり場のない絶望感すら感じた風景であった。

世界的規模で地球の環境破壊が進む中、中国という国が地球環境に与える影響は大きく、世界の経済先進国が自ら模範を示しながら警鐘を鳴らしていかない限り、歴史上の大きな汚点となる可能性があり、特にアジアでいち早く、最も経済成長を遂げた日本は、経済面のみならず環境保護の分野でもアジアのリーダーシップを取っていく立場にあり、そ

れには民間企業の積極的活動なくして実現は不可能であることを認識した。当社においても日常の事業活動において環境施策へ積極的に取り組み、その成果をノウハウとして海外FCにも波及させていくことが何よりも大切であり、その一方

で利益の一部を植林活動等、将来に繋がる環境施策として継続的に取り組むことにより、初めて世界的規模でリーダーシップを取ることができていることに改めて気づくことができた。





将来のために植林を

副団長 (有)佐藤商店 佐藤 浩一

僕が初めて岫岩を訪れたのは昨年6月でした。植林の候補地として視察に来た訳ですが、份国秀書記自らが、我々植林会の希望を聞いてくださいます。岫岩政府の日中合同植林に対する熱意と意欲をとて強く感じました。そして手入りの行き届いた広大な苗木畑を目にしましたとき、岫岩の人達と共に植林すれば必ず成功すると確信したので。実際の植林は想像していた以上にすばらしく、あらゆる面で大変行き届いた準備がなされていました。そして我々の念願でありました広葉樹を主体とする植林実践ができ、大変感動いたしました。岫岩満族自治県政府関係者の皆様と小島社長のご尽力には、心より感謝致すと共に御礼申し上げます。

植林はただ植えるだけでなく、その後の育成と管理が重要になります。今回の新たな植林パートナーには安心して任せられます。岫岩での植林は来年、再来年と続きますが年を追うごとにすばらしい植林事業に成っていくことでしょう。さて、毎年偏西風に乗ってやって来る中国の黄砂ですが、年々ひどくなっているように感じます。黄砂は大气中の有害な物質まで一緒に運んでくるそうです。「中国の問題だ」と他人事ではなく、我々日本にとっても身近で重大な問題なのです。この問題についても早期解決の手段は無く、地道に広葉樹を植林するしかないのです。植林した木が大きく成長し、効果が現れるようになるには長い年月が必要ですが、子供の代、孫の代の為にも我々日本人が積極的に植林活動に参加する必要があります。

当会は今まで条件の良い所で植林をしてきましたが、今後はなんらかの形で中国の砂漠化問題にも取り組んでいきたいと考えております。我々の活動を通じてより多くの人に植林の大切さを理解していただき、この植林活動が日中友好の架け橋となるように、今後も継続して尽力していきたいと思えます。



驚きの植林

副団長 イデシギヨー(株) 井出 芳則

大連周水空港に降り、バスで今日宿泊の岫岩市内のホテルに移動する途中、周りが霞み、太陽を見たら朧月ならぬ朧太陽となつて景色も良く見えないことの驚きが、まず最初でした。

地元のガイドさんの説明では「これは黄砂です」といつていました。しかも年々ひどくなつてきているとのこと、中国での黄砂の多さは日本にやってくる黄砂とは比べ物にならないほどの違いがありました。

岫岩の近くになると、突然沿道に小学生の鼓笛隊による熱烈歓迎があり、しかも、植林当日においては、前日の鼓笛隊に加え、民兵さん、地域の人々、県の要人、報道関係者と総勢二千人以上に及ぶ参加者があり、今までは段違いの人々の出迎えを受け、いざ植林に移ったときは

一山が人々で埋め尽くされたほどの状況にも驚かされました。

そして、記念碑には今回参加した我々メンバー全員の名前が刻まれていることにも感激と、驚きを吟じえませんでした。それと、地元県の要人の方々や我々に対する態度もまた従来とは違い、誠意と感謝の気持ちが行動になって現れ、私どもにも感じ取れました。これは環境問題が大分深刻なことが国民一人ひとりに理解度が深まり、わざわざ日本から植林にやってくる我々に対する態度となっているのかなと、感じ取つてきました。それが本当なら、我々もつとやる気が出て植林をし、その木の根が中国の環境向上と日中友好の礎としての「根っ子」になつてくれたら、素晴らしいことだと思つております。



環境と感情

(株)まるき 木下 淳

黒龍江省を離れ、遼寧省では初の植林となった第八回植林であったが、事務局並びに小島社長・佐藤常務をはじめとする理事の方の前準備、そして現地サイドの尽力を賜り、無事に遂行することが出来た。あらためて各位に謝意を申し上げます。

トウサイカチ・朝鮮五葉・ナラガシワ・キハダという四樹種による混交植林であり、最低百年は伐採を禁ずるといふ山地緑化・生態環境の改善を目標とした素晴らしい植林を始める第一歩を踏み出したことは、日中双方に取って誠に以って素晴らしいことであると思う。岫岩到着の日に申し上げた二十年・三十年後に感謝頂ける立派な事業になることは、揺るぎの無い事象であろう。

ところで、三月に北京で開催された全

国政治協商会議に於いて、今後中国政府が割箸をはじめとした家庭用木製消耗品の生産販売禁止について議論を進めていくことが決議されている。ここでは、営林方法・リサイクル方法の中国での問題を取り上げる一方、日本での成功例を対照的に紹介していた。即ち、「日本を見習い」資源還元型社会を打ち立てることの必要性を説いていたのである。

実際に日本に於いての社会水準が、中国が言うところのどれ程の水準であるかは不詳ではあるが、「師として見習うべく」という提議である。

我々業界が購買にばかり夢中で、将来を見据えた社会形成を行っていないこと（行いきれないことへの風刺も、恥ずかしながら一面にはあると思う。今からでも遅くは無い。確実に木は育



つのである。このような誇れる植林が後世に評価頂けるよう、永続的に取り組んでいきたいとの気持ちをあらためて持つた。





黄砂が教えてくれた明日 (株)ブリーズ 木村 勇雄

今回の参加は2回目になります。初参加の第2回ツアーから6年が過ぎ、ツアーの趣旨は変わることなく、参加人数も増加し又、新たな期として今後3年の計画が成されていること等を思うと、事務局のご苦勞と成果に激励と感謝を申し上げます。

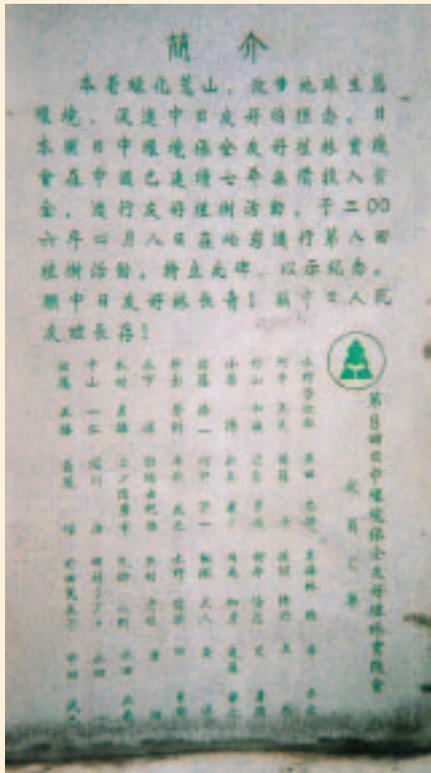
現地の生徒、学生、農民、県役人そして、政府要人の熱烈歓迎。そして、彼等と一体となり、「樹を植える」という単純作業の一瞬の交流に、パフォーマンストと言われない様な半恒久的の持続を願いつつ、純粋な熱い思いを感じずにはいられませんでした。木の伐採により、砂漠化、畑化した山々が黄砂に覆む現実を目の当たりにした時、我が国への警鐘と成りかねない、森林破壊から環境破壊という憂慮意識を全員が認識したと思います。岫岩県政府が、我々植林実践会の活動を真摯に受け止めて、共に植林事業の友好的継続を宣誓し合えたことに、大いなる誇り

を持つべきだと思います。

私的に今回のツアーは、植林地へのアクセスが大連市街から約4時間とスムーズであったこと、どうしても敏感になっってしまう食事と宿泊ホテルへの不満を覚えなかったことが、精神的安堵感となり、ストレスを感じることもなく快適なツアーとなつて内心ホツとしました。事務局そして、ご尽力をいただいた湧別商事の小島社長に、感謝。



植林記念碑裏面参加者名碑



大切な事 (株)ブリーズ 中山 一弘



中国全土に緑が

(有)佐藤商店 佐藤 正勝

友好植林の参加は今回で5回目になりました。今年度、日本側は29社39名が参加、現地の方々は小・中学生を含め約2000人の参加で、合計約31000本の苗木を植林して参りました。参加する度に思いですが、中国側は、我々海外の人々を明るく迎えて頂き、皆と一緒に苗木を植える、その植える姿の一生懸命な姿を見て参加する毎に感動致します。

我々が植えた苗木は、年間に約10cm程度の成長と聞いておりましたが、今回植えた苗木も数十年後には立派な成木に成長することを心から思い、又、その成長を今後この会を通じて皆で見届けたいと思います。広大な中国の大地に対して、植林の面積、苗木の数がまだまだ少ないと思われ、今年度日本側と中国側の割割に対する環境問題等も有りですが、使用する側や加工する側が先頭に立ち、

今回の植林が初めての参加となります、やはり初めてということでは緊張が有りました。しかし実際に植林地の岫岩県に到着して見ると、いきなり小学生達の熱い歓迎があり、ホテルに着くまでの道のりをパトカーが先導と、驚きの連続で緊張もとんでいきました。

そして更に驚いたのが植林の規模の大きさで学生、農民、県委員会、県政府要人など2000人が集まり合計31000本も植樹したことです。

そしてツアー中にごつと空を覆いかぶさる黄砂を見て森林破壊が生んだ弊害、また森林保護、環境保護の大切さ必要性を体で実感しました。

今回の植林が初参加でしたが、植林を通して日中友好の絆を深め、環境保護という目的を持つ素晴らしいツアーでした。



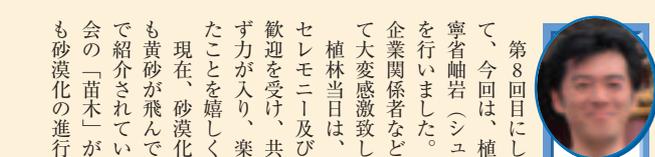


躍進する植林事業
 (株)日東ストローク商会 米田 忠雄

早いもので植林事業も八回目を迎えました。私も三回目の参加となります。初めはあまり深い感慨も無く参加したのですが、回を重ねるごとに植林事業の偉大さと、日中友好にどれほど寄与しているかを実感して参りました。今年からは新天地岫岩(シュウヤン)で三年間続けるとのこと。更に地に足が着いた活動にしなければと気持ちを引き締めて参加いたしました。

大連周水子空港より岫岩市内へ向かい、前夜祭を思わせる鼓笛隊の歓迎を受けながらホテルへ到着。結団式を済ませ、翌日の植林を楽しみしながら就寝いたしました。植林当日、ホテルよりバスに乗り三十分程で目的地へ到着いたしました。驚いたことに、学生さんだけで千人

植林事業は派手さの無い地味な事業です。しかし、緑が失われつつある現在、非常に重要な事業でもあります。今年植林した木は百年間伐採しないということを行い、百年先を見つめて努力を続けなければと考えを新たにした今回の植林事業でした。(私はあと何年?)
 また、来年皆様と再会できることを楽しみにしております。



環境と植林と日中友好
 アオト印刷(株) 広島 秀俊

第8回目にして、初めて参加致しまして、今回は、植林実践活動の場所を、遼寧省岫岩(シュウヤン)県へ移して植林を行いました。現地県政府、市関係者、企業関係者など熱烈歓迎をして頂きまして大変感激致しました。

植林当日は、天候にも恵まれて、セレモニー及び、現地小中学生にも再び歓迎を受け、共同作業での植林にも思わぬ力が入り、楽しく行うことが出来ましたことを嬉しく思いました。

現在、砂漠化が各地で進行し、日本へも黄砂が飛んでくる事態が新聞記事などで紹介されていますと、今回の植林実践会の「苗木」が、何十年後には、少しでも砂漠化の進行を止める役目で貢献出来ることを確信して止みません。

今後、100年間は、植林による森林を伐採はされないと言う相互に約束を致しました。

将来、植林実践会が益々現地との友好親善はもちろん、経済との強い結び付き以外に、「環境と日中友好」というテーマを目標に末長く継続され大きく発展されることと信じております。

又、現地関係者との昼食会、及び夕食(返礼宴)では、大いに盛り上がりまして友好の一端を担うことが多少でも出来たのではないかと思います。しかし、盛り上がり過ぎて、体調を崩したのも事実です。是非、次回参加される方は、くれぐれも体調には留意して下さい。



日本人と植林した森だよ、と
 アオト印刷(株) 佐藤 清

日中環境保全友好植林実践会の第8回植林及び式典に参加させて頂き、有難うございました。

中国は初めて行く国でした、大連空港に降りたときに「埃っぽい国」と感じました。

次の日の朝、植林地に移動する時も私達の乗ったバスを警察が先導して現地へ向い、会場には多くの子供達や地元の方軍の方々に盛大に迎えて頂きました。

私も一人で何本か植えた頃に地元の子供達と協力し、一緒に植えるようになり14本位植えたかと思えます。

これは砂漠からの黄砂の影響からでしょうか。環境破壊から起きている現象としました。

時期的にこれから新芽が芽生えてくる季節、移動するバスからの風景はまだ殺伐とした風景でした。大連から岫岩市内に行く途中で市内に入る前に歓迎の大勢の鼓笛隊が迎えて頂いたり、夜には中国共産党の書記の方や県・市の方からの盛大な歓迎会を開いて頂き感激致しました。

「この森は自分が中学生の頃に日本人の方々と植林した森だよ」と話せるようになってくれればと思います。

残念に思った事はもう少し植林を行う時間が持てればと感じました。

植林実践会による植林事業活動を、これからも末長く続けて頂きたいと思えます。

テレビや新聞で報道が行われていますが、国と国の感情的な事は感じられません。

残念に思った事はもう少し植林を行う時間が持てればと感じました。



又、植林事業に参加できる機会がございましたら、参加したいと思えます。最後に今回植林事業に参加した皆様にご挨拶です。





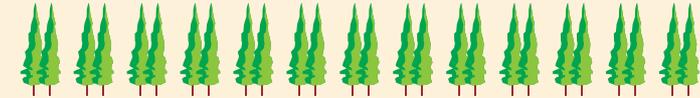
感動の植林事業

富士製袋(株) 平井 史之

この度、第八回日中環境保全友好実践会に初めて参加させていただき、有り難うございました。大連から植林の地である岫岩県にバスで四時間あまりの道のりを走って目にした土地は、茶色く霞がかかって、晴れているのか疑問に思うような空と赤茶色のやせた広大な大地でした。中国に入って初日の夕方に、翌日植林を行う場所を通る所で小中学生の鼓笛隊に迎えられ、岫岩県の人々の歓迎ぶりには非常に感動致しました。また、現地の役所の方や政府の方まで出席された歓迎会や、岫岩中日環境保護友好植樹協会の設立式典にも参加させていただきました。中国の人々の環境への思いを非常に強く感じさせられました。

スコップを持って苗木を植えていきますが、言葉は通じなくても、目標が解かり合っているせいか、短い時間でしたが、みんな一本一本大切にこの地が緑で覆われる事を願いながら植林活動を終える事ができました。特に驚いたのは、この植林の地に中日友好林の碑が立てられていた事で、更にはその裏側には植林に参加した人の名前が全て彫られていました。その後、岫岩県の街の公園の中でも植林を行いました。其処にも中日友好林の碑が同じように立てられており再三驚かされました。

環境問題が世界で騒がれている中、中国の子供たちが環境の大切さをいつまでも思い、この日中環境植林実践会が永続して行く事を期待しております。



植林を終えて

溝端紙工印刷(株) 船橋由紀雄

第八回日中環境保全友好植林実践会及び記念式典に参加させていただき有難うございました。昨年に続き2回連続の参加です。昨年参加してからは地球環境、特に植林の重要性がより理解できるようになり又関心も意識も高まりました。以前から中国に於いては植林に対してこのまでの取り組みが出来るのか、私の周辺の方の声からではかなりの疑問を思っておりました。しかし今回の遼寧省岫岩県の県を挙げての取り組みと意気込みに接し、又私自身が体験させていただいたことで不安がいつきに解消されました。

昨年植林の広葉樹の苗木が此処岫岩県からとは思いませんでしたし、今回は広葉樹、落葉樹の苗木植林だったこと、又苗木育成が66ヘクタールもある広大な地で育成されていること、何年も前から小島様、斉藤様の手で行われていたこと等々……。植林事業に2回目の参加の私ですが森林が山を守り、河川を守り、尚且つ海の浄化に繋がることが皆様のお話



を聞き大分理解できるようになって参りました。前回は小・中学生中心でしたがこの岫岩では、小・中学生だけでなく多分近隣の一般の農民の方と思えますが数多く参加され、その他、軍、関係の方が一体となりとても好感がもてました。私もこの雰囲気の良い所に引き込まれ久しぶりに爽快な汗をかくことが出来ました。これから3年連続岫岩県とのことで、これで、来々年とどこまで成長しているか確認ができる楽しみが出来ました。此処で育てられた苗木が岫岩、遼寧省の一部だけでなく中国全土へ広げこの活動が広く理解され、環境保全に必ずや貢献できるものと確信しました。



本来の役割を取り戻す自然を

東商化学(株) 上ノ段秀幸

今回の植林実践会は、昨年までの黒龍江省・吉林省での実践会と異なり、遼寧省地元民2000名と友好植林実践会39名が参加しました。

樹木も、本来の森林生態を育む種類に変更、新しい意義の実践会に初めて参加しました。政治、経済の問題や国境を越えて、地球や環境を守る民間レベルの団体としては、「岫岩中日環境保護友好植樹協会」の法人設立への積極的な協力も、当実践会の成果として大きく評価されます。中国のこの大地を、山は原始性の高い自然環境を、森は森林生態系を、川は清流を：自然が本来の役割を取りもどすよう環境保全に貢献していきたい。

私達が企業市民として、地味だけれども皆で地球を守っていく気持を励みにする思いを、次世代に伝え未来に継続させたいと思います。

第9回・第10回実践会まで、続けて同一地域で開催されますこと、文化の交流、社会の振興、環境について考え実際の活動に学ぶことの重さを身感じた植林実践会でした。

友好植林実践会へ参加させていただきました。有難うございました。

中国西部の砂漠化を 痛感



東海林不動産
東海林 強

当日、私たちが大連空港に到着すると、外はどんよりと曇り、まるでスモッグが掛かったかのような状態でした。これがあの黄砂でした。そしてそれは目的地に到着しても同様でした。地球温暖化現象である中国西部の砂漠化をマスコミでは知っていましたが、現地に来てみてあらためて痛感させられた初日のスタートでした。また、現地で想像を超えた大歓迎ぶりにも驚かされました。これまでの実践会皆様の過去の取り組みが高く評価され、水野団長をはじめとする諸先輩方のご努力が忍ばれました。

今日、日本人が間接的に中国の水を始めとする多くの資源を大量消費（＝中国の環境破壊）し、もはや私たちの豊かな生活は中国ぬきでは考えられなくなってきました。また、私は以前より、日中友好に水を差す「政冷」に心が痛み、微力ながら「何かのお役に立てたら」という思いがありました。今回その思いが少しでも叶い満足しております。そして、お誘い頂いた湧別商事㈱の小島社長にこの機会をあたえていただいたことに感謝申し上げます。また、関係者の皆様が大変お世話になり、この場を借りてお礼申し上げます。



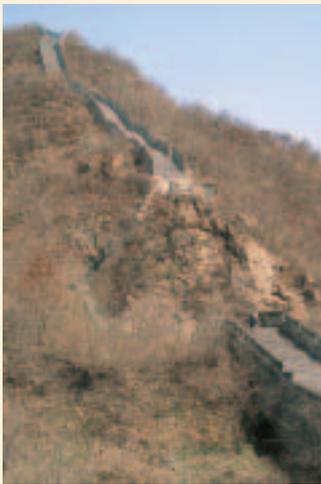
20年・30年先の緑の森を想って ティールディバシー(株) 諸田 久寛

この度日中友好環境保全植林実践会の活動に参加させて頂き、私自身環境保全の実践は、初の試みであり、大変貴重な経験をさせて頂きました。そして中国側の地元小・中学生・農民・県政府要人と、さまざまな方々の熱烈的歓迎には感動と同時にこの植林実践会の重要性を強く認識させられました。実際の植林では土壌が硬くスコップにも非常に力が入り中学生たちと悪戦苦闘したのが思い出となりましたが、それだけ土壌が肥えていないことの証拠でもあり環境保全の意義を強く感じました。



日本に帰国してからしばらくして黄砂が吹き荒れたニュースを聞いた時、砂漠化が深刻な環境問題である事と1日に神奈川県ほどの規模で砂漠化が進んでいる事実に、規模から言えばまだまだかもしませんが、20年・30年先の緑ある森を想像しました。

また、私事ですが今回の植林を通じて他業種の皆様とも親交を深める事ができたことも、大変うれしく感謝申し上げます。最後になりましたが、今回の植林ツアーの団長としてリーダーシップを発揮され無事成功へ導いてくださった水野団長をはじめ事務局及びスタッフの皆様のお力添いに深く感謝申し上げます。



虎山長城



日中友好植林のより一層の発展を望む デンカポリマー(株) 日馬 和彦

今回の植林の参加は会社としては3年連続で個人としては2年ぶり2回目の参加となりました。大連空港について思ったことは2年前より黄砂が多くなったのではないかと思ったことです。案の定帰国後の北京などで黄砂被害、東京でも観測されたニュースなどで今年の黄砂の多さには驚きです。

最初の感動は初日に大連より今年から植林が新たに始まる岫岩に向かう途中、県内に入ったと思われる場所で急にバスが止まって「何だろう？」と思っただけで外に出ると地元小中学生のパレードによる出迎えであった。通訳の方に子供達が連呼している言葉を聞いたところ「熱烈歓迎」ということでした。その後、岫岩市街地のホテルに向かうまでの地元警察パトカーによる先導で、赤信号での優先通行には地元への歓迎ぶりが良く伝わりました。



2日目植林当日でも地元の水産、職員等総勢二千人を超える歓迎ぶりには本当に感動致しました。今回植林された樹木は県当局との契約で100年伐採しないことと聞いて参加者全員の名前が刻まれた記念碑を何年後、何十年後か木々の成長の喜びとともに見に行けたら素晴らしいことだと思います。

日中関係は昨年の反日デモ、靖国参拜問題、東シナ海ガス田問題等政治的には良好とは言えない状況が続いており、また地球温暖化、砂漠化、世界的人口増による食料不足の問題等は待ったなしの状況です。民間レベルでこのような日中友好植林等がもっともっと活発になり、政治的にも友好関係が築けて、近い日に「政冷経熱」と言う言葉が死語となることを期待しています。

2度目の植林に参加して

(株)東京クイン 飯塚 正人



昨年引き続き、2度目の日中友好植林に参加させていただきました。今回は昨年と違い中国各地で起こっていた、反日デモも沈静化し緊張の面持ちは無く5日間を過ごしました。第8回目は、植林地場所を岫岩に移し大連からバスにて入りました。昨年初めて参加させて頂いた時、歓迎セレモニーと共に地元中学生たちと和気あいあい植林をしたことがよみがえりましたが、今回は、中学生から高校生まで大勢で、市民の方や軍隊の方を受け、戸惑いや恥ずかしさが入り混じりましたが、子供たちの輝く目を見ているうちに我も忘れ、1本でも多くの苗木を植えようと鎌を持つ手に力が入り、子供たちと次から次へと植え、ピッチが上がってきたところで時間切れ、額にはうっすらと汗をかき風の心地よさを感じました。また、記念碑には参加者全員の名が刻まれており一生の記念となりました。帰りのバスの中で1本でも多くの苗木がこの大地に育ってくれることを祈り



つつ、植林地を後にしました。ホテルに帰り夜の宴の中でも林業局の皆様や地元名士の方々にも歓迎を受け、改めて植林事業のすばらしさと意義を感じました。

翌日は丹東へ行く日程で、私自身も初めての町ですし、なんと言っても朝鮮戦争で失われた鴨緑江大橋と鴨緑江を挟み対岸の北朝鮮をどうしても見なかったのですが、早朝より腹痛と不安でいっばいバス移動の中の苦痛と不安で戻らなりましたが、早朝より腹痛と不安でいっばいバス移動の中の苦痛と不安で戻らなりましたが、早朝より腹痛と不安でいっばい

最後にりましたが、水野団長のもとで微力ながらも日中友好の架け橋の仲間入りを今回もさせていただきました。この植林事業活動がより多くの方々に参加と理解をもって継続される事を願い、参加されました皆様に感謝と共にご健勝をお祈りいたします。

一生の思い出に...

三和紙工(株) 木村 宏司



私はこの度第8回植林事業に参加させて頂き、一生忘れる事の無い思い出を作ることが出来、非常にありがたい気持ち一杯です。

出発当初は「中国そのもの」、「国境近辺」に対する不安という自分勝手なイメージだけで行く事自体あまり気乗りしな事だったのです。

到着当日、植林地の子供達の「熱烈歓迎」には鳥肌が立ち涙が出そうになる位の感激でした。どれ位の時間その場の待機であったのかは存じませんが肌寒い日だったし、さぞ待ちくたびれただろうと思われます。鼓笛隊の音楽が我々を通り過ぎる迄の間ずっと続き、ありがたさが身に染みしました。

翌日の植林作業時大勢の方々に参加され、地元学生と楽しく(会話はせずとも心は通じていたと思われます)作業する事が出来ました。苗木を植えるとき、「この苗は無事大きくなってくれるのかしら?」「ちゃんと大きく育つてよ」と祈りながら...

さて、植林が終わりその日の夕食迄は元気に活動していましたが食事が終わ



驚きの中国

睦化学工業(株) 水野 信雄



当社は、昨年より参加させて頂いています。実は、私個人としては3年前に事務局よりお話を頂いた時、真っ先に参加したいと思えました。そして今年参加出来る事になった時、「夢がかなった」と思い、改めて皆様に感謝の気持ちで一杯になりました。(シエネ)

中国訪中の思いは以前より有り、近年の大成長を続ける原動力、中国国民生活等を、自分の目で見たいと思っていました。今回チャンス頂き、とにかく見たい、見たいでした。

大連から、バスで岫岩県(遼寧省) 320km。走破も、車窓からの風景は驚きでした。

大連の町に緑の木々が殆ど無く、不毛との印象、数百km走るも緑の大木は無し、なぜ?

目的地に近づくと、道端に数百人の子どもの合唱隊、熱烈歓迎・熱烈歓迎との大合唱でわれわれを歓迎。

又、翌日の植林地でのセレモニー、セレモニーの規模ではなく、地方自治の行事にも匹敵、何と、子ども1200名、人民兵数百名、地元住民数百名が勢ぞろい、植林開始とともに山々に一気に散らばり穴ぼこだらけの山が、植林の小さな木で針山に変身、人力の驚き。

夜の晩餐では、中国共産党員との会食、企業人との懇談、中国の人は酒が強い。地方都市でも大成長の原動力を驚きで感じました。

地球温暖化、砂漠化、黄砂、酸性雨等地球規模の取組みが必要であると実感しました。今後は日中友好植林事業が世界的規模に発展する事を願います。最後に参加させて頂き本当にありがとうございました。





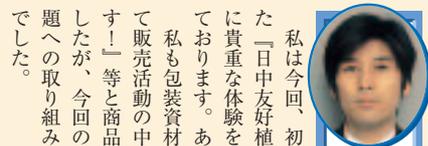
未来に繋がる植林事業

水野産業(株) 遠藤 雅之



まずは、沢山の方々にご賛同・ご参加いただきまして有難うございました。未来の子供達へ繋がる植林事業に初めて参加いたしました。

これまでも参加する機会はございましたが、一寸躊躇させるものがあり今回が初めての参加となりました。複数回ご参加いただいている方々のお話を伺いま



日中友好の大きな役割を

福助工業(株) 先坊 政則

私は今回、初めて参加させて頂きました「日中友好植林ツアー」を通じて非常に貴重な体験をさせて頂き非常に感謝しております。ありがとうございます。私も包装資材を取り扱うメーカーとして販売活動の中で「環境に優しい商品です！」等と商品を紹介することはありましたが、今回の様に自ら本格的に環境問題への取り組みを行うのは初めての経験でした。

現地の方々の熱烈歓迎に非常に驚かされ、又、植林地においては地元の小、中学生・農民・県委員会、要人など約20

つなぐもの」大地の守護神、農業の大切さを強調した内容でしたが、植林事業ともリンクいたしますのでそのまま記載させて頂きたく思います。

「農作物(筍)を作る以外にも、農業(植林事業)には大切な仕事があります。それは、洪水や土砂崩れを防ぐ、地下水など水資源を保つといった「自然を守る」はたらき。そのさまざまな機能は、お金に換算すると、日本だけで年間8兆円あまりになるといわれています。」実際にこれがあんなに中国だったら、いくらになるのでしょうか？

植林事業自体は、直ぐには成果の見えない地味な事業です。ただ、確実に未来の子供達の為に成る事を実感しながら、当地の子供達と一緒に一本一本植林をして参りました。

また、参加者全員の名前を彫刻した石碑を2カ所建立していただき、「中国に名を残した男」として更に中国ファンとなりました。難点である拙過ぎる中国語は、田先生(弊社貿易課主催中国語教室)に教育していただき、「一人歩き中国」を実現したいものです。勿論、整腸剤も忘れずに……。



00名の方々のご参加のもと、地元の小中学生と植林を行いました。植林では言葉は通じませんが身振り、手振りで言葉が通じ合い、小さいながらも「日中の友好活動」が出来たと感じております。又、今回初めて中国を訪れてゴミが非

常に多いことに驚きました。ゴミが町のいたる場所に放置してあり、環境にも悪影響を及ぼす事が心配されました。今回の植林活動が植林のみに留まらず、ゴミ問題等の環境問題にも繋がって行けば非常に素晴らしいと思います。これからもこの素晴らしい植林活動が未永く継続し、環境問題、日中友好に益々大きな役わりを担う事を期待しております。



新しいスタート

水野産業(株) 黄 洋

私は二回目の参加になります。去年と比べ、規模が大きくなった新しい植林地遼寧省岫岩県での初回活動ですが、無事に新しいスタートを切りました。去年年末より中国からの輸入割替の値上げなど、より今回の活動の重要性を強く感じました。また、今回の特徴は何より地元が準備してくれました苗木の栽培基地でした。日本から現地を持っていった七かまどなどの苗木が栽培され、地元だけではなく、将来的に他の地域にも提供されると聞きました。これはうまく行きましたら絶対素晴らしいプロジェクトになると強く思いました。

環境保全は一個人、一国の問題ではなく、世界共通の問題となっています。日中の間に政治などいろいろ問題もありますが、環境問題で一丸になって真剣に取り組んでいかなければいけないと感じました。現地での盛大な歓迎セレモニー、実践会メンバーと現地の子供たちの真剣な姿を見て、一瞬国境を越え、心の通じた友好交流が実現できたと思えました。今回の活動で初めて中国に行かれた方もいて、皆様本当にお疲れ様でした。実践会の活動は皆様の応援がなければ成り立たないので、これからもよろしくお願ひ致します。来年のご参加も心よりお待ちしております。



植林の感動

水野産業(株) 田 東峰

4月の初春の候、私は日中環境保全友好植林実践会の方々と一緒に中国へ植林に行つて参りました。今回は実践会の第8回目の植林ですが、私にとっては初めての参加です。中国人ですが、中国での植林も初めてでした。世界経済発展につれ、地球の環境はいつそう悪くなってきました。地球温暖化、洪水、砂漠化などの環境問題は世界経済成長に一番嚴重な問題となり、人類生存にも影響を及ぼす問題となっています。発展途上国の中国は国の科学技術、経済、文化などが早いスピードで発展していると同時に、これらの原因となる環境問題も日々深刻になっています。昨今中国華北大地で発生した砂嵐も一例であります。中国は一大国であり、日本の近隣でもあります。中国で発生する環境問題は日本、世界全体に直接影響します。これを認識して、日中環境保全友好植林実践会は8年連続で中国の環境改善の為に中国で植林事業を展開しています。

今回の植林地は中国遼寧省岫岩県です。現地に着いたら早速感動しました。道沿いで何百名もの学生さんが盛大な歓迎式をしていただきました。4月といつても、現地ではまだ寒いです。飛行機が遅れた為に、現地に着いたのは40分遅れでした。現地の学生さんが1時間あまりに寒い中で私たちを待っていました。学生さんたちの期待の視線を見て、私は今回の植林の責任をとる感じました。これから植える木はこの子たちの未来に関わる木だとわかりました。もちろん岫岩県政府の方々からも熱烈的な歓迎をいただきました。到着して次の日は植林の日でした。植林現場に行つて、また感動しました。現場では岫岩政府の方を始め、兵士さん、学生さん、一般市民などが2000人あまりが集まって、植林にきました。一般市民まで私たちが今回の植林活動に多大な関心を持っていただいたのが、本当に



意外でした。来場の皆様はみんな一生懸命に苗木を植えていました。この植林事業は自分たちの故郷の為、そして、中国、世界の環境の為であることがちゃんとわかっていただけたようです。植林が始まったら、私はさらに感動しました。それは実践会の方々の一生懸命の姿に対する感動です。皆さんは前日の旅でかなり疲れたにも関わらず、皆一生懸命に穴を掘り、木を植え、穴を埋めていました。かいた汗と黄色い土で顔が汚れていても誰も気にせずに頑張って木を植えました。おかげで、1時間あまりの時間だけで半分くらいの山が全部苗木で覆われました。これからこの林地は永遠に日本の皆さんが中国緑化の為に汗をかいた証となるでしょう。今回の植林事業を通じて、政治、経済を越えて、日中両国の友好を一層感じま

友情の種



中青旅控股股份(有)
唐 翊

毎年四月は自分にとって「植林の季節」です。もう既に八年連続でこの植林ツアーの案内をさせていただいている私は、今までの色々な感想があります。

百花繚乱の日本と違って広い中国には緑が多くありません。この植林実践会に参加された皆様は、自分の力を中国の植林事業に捧げることが素晴らしい事だと思っています。行き先が辺鄙な土地であっても、行程が大変にもかかわらず植林の目標を達成しようとする皆様の熱意に、頭が下がらない人がいるでしょうか。

ですから今回の岫岩の人たちは、皆様に誠心誠意歓迎の気持ちと、子供たちは天真爛漫の笑顔を見せました。

そして皆様は木の苗を植えたと同時に、友情の種も地元の人々の心の中に蒔き広げたのではないのでしょうか。やがてそれが人々の心の中にしっかりと根を張って、花を咲かせ実を結ぶことになるのではないのでしょうか。

饒河↓東京城↓岫岩↓? 全中国に緑を広げる偉業だと思えます。皆様は植えた木の苗・友情の種が厳しい風雪にも耐えて、力強く真直ぐに育つことを願っております。今後も植林が続く限り、是非一緒にさせていただきたいと思えます。



新たな植林の始まり

トップツアー(株) 永田 一

私自身としては今年で4回目のお手伝いになります。今年から新たな植林地でのスタートとなって、新たな気持ちでの植林に参加させて頂きました。

岫岩での植林は東京城での植林と違って、現地の熱烈な歓迎ぶりに驚くばかりでした。現地での植林活動を進める団体の決定や、数多くの子供たちが参加した歓迎行事・植林活動など多くの気持ちも伝わりました。また現地産業・苗木育苗地などの施設見学など色々な見学をさせて頂き大変勉強になりました。とくに力強く育つ苗木を間近に見て、植林活動への取り組みの強さを改めて感じました。

今回のツアーでは北朝鮮との国境の町丹東、中国東北部一の大都市瀋陽とバス・列車で巡りました。丹東では対岸北朝鮮との経済的な格差を改めて感じました。また瀋陽では発展する中国のエネルギーシユな一面を垣間見ることができました。植林地とその周りに広がる広大な農業地や、近代的な高層ビル・工場群など中国の格差社会の発端を見ることができるとツアーになったと思います。



植林風景



中朝国境

今回のツアーでは後半多くの方が体調を崩されて、具合の悪い中後半のツアーにご参加いただくということになってしまいましたが、原因と予防をし、更なる準備をしていく必要性を痛感しました。

今回の植林に参加して、今後ますます植林活動が広がるように祈っております。また現地での植林活動が恒久的に続き、尚且つ広がっていくことを願っています。

現地でお世話になった方々

劉国秀 県書記
関崇新 県副書記・県長
鄧延發 県副書記・県長常務副県長
李宝承 政府副県長
蘭真芳 政府副県長

趙万彩 政府副県長
李成華 政府副県長
原 丹 政府副県長
郭欽平 岫岩縣林業局局長
王志運 岫岩縣林業局林科所所長



会員及び寄付募集のご案内

設立趣旨書

昨今地球を取巻く環境は、先進諸国の産業の発達と、発展途上国による急激な経済活動の活発化とともに悪化の一途を辿っています。

酸性雨、野生動物の減少・生態系破壊、温暖化現象、オゾン層破壊、森林破壊、砂漠化、海洋汚染など様々な要素が絡み合って環境悪化を招いております。

特に最近では地球温暖化による様々な気象その他への悪影響を懸念する専門家の声が増しに拡大しており、京都議定書に象徴されるように、各国がその悪影響を認識しCO₂の削減目標数値を具体的な形で上げるなど、地球環境を守ろうとする国や人々の意思が増大しております。

我々地球に生き、生活している以上、未来永劫子々孫々のためにも住みやすい緑豊かな地球環境を守る義務があります。

CO₂の削減には、様々な産業活動での排出規制も大事ですが、植林などによる森林の増加は、一方で多様な地球環境保全効果が絶大であると言われていたことは周知の通りです。

日中環境保全友好植林実践会はこれまで、緑豊かな森林が地球に及ぼす好影響と、日本でも多く消費される割箸などの原料としての木材の正しい供給を踏まえ、森林破壊が懸念される中国での植林の実践を通じ、地球環境保全と緑化増進に寄与するため過去5年間に渡り中国黒龍江省饒河県にて計50万本のカラマツ等の苗木の植林事業を実施して参りました。

そして今後も、中国北部の緑化のための植林事業を推進すること等により、環境の保全に寄与することを目的として特定非営利活動法人日中環境保全友好植林実践会を設立します。

主な事業

- 中国の緑化推進のための植林事業
- 中国の緑化推進のための植林事業の広報誌などによる普及啓発事業
- 中国の緑化推進のための森林保全に関する調査、研究、情報収集事業
- 中国の緑化推進のための地球環境保全・改善事業
- その他目的を達成するために必要な事業

お申し込み方法

会の所定用紙（申込書）に必要な事項をご記入の上、FAXまたは当会ホームページのE-メールにてお申し込み下さい。会費は、右記口座あてお振込みくださいますようお願いいたします。なお、お振込み料金は、貴台にてご負担いただきたく存じます。

お申込書

個人正会員 団体及び法人正会員 寄付

お申込日 | 平成 年 月 日

フリガナ | _____ 業種

お名前 | _____

〒□□□-□□□□

ご自宅住所 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

〒□□□-□□□□

勤務先住所 | _____

勤務先名 | _____

電話番号 | _____ FAX番号 | _____

E-mail | _____

会費

個人正会員	10,000円(1口/1口以上)
団体及び法人正会員	50,000円(1口/1口以上)
寄付	1,000円(1口/1口以上)

●FAXにて、下記番号あてにお申し込み下さい。

FAX番号 03-3836-5215

●お振込先

会費は下記口座あてお振込みくださいますようお願い致します。
なお、お振込み料金は、貴台にてご負担くださいますようお願い致します。

お振込み先	UFJ銀行 秋葉原支店
口座番号	普通預金 3951682
口座名義	日中環境保全友好植林実践会 事務局長 中田 武巳(ナカタ タケミ)

●ご連絡先

特定非営利活動法人 日中環境保全友好植林実践会事務局
TEL 03-3836-9408 URL <http://www.syokurin.com>
E-mail: info@syokurin.com

編集後記

今年で第8回目の中国友好植林は、場所を遼寧省岫岩県に移し昨年に続き39名の参加でしたが、皆様のご協力により無事に終了することが出来ました。今年は地元の皆様盛大な熱烈歓迎を受け我々も大いに感激いたしました。

そして、植林の現場では地元の中学生や住民、兵隊、政府・林業局関係者を含め総勢2,000人を超す大勢が参加して地元で生育する4種類の広葉樹(トウサイカチ(皂角)、朝鮮五葉(紅松)、ナラガシワ(榿)キハダ(黄菠蘿)を計約31,000本植え、「本当の森を造ろう」という一つの目標に向かって行動を起こしたことは、大変意義深いことだと思います。

地球温暖化そして中国では黄砂や水害が発生する昨今、益々植林の必要

性が強まっています。参加された皆様も感想文でそのことを強調されていますが、今後も当会はこの意義深い活動を続けて行きたいと考えますので、皆様の力強いご支援とご協力を期待して、編集後記といたします。

(事務局長 中田武巳 記)

